

石川県内の小学校における体育施設・用具・器具と 体育指導に関する調査

学校教育教員養成課程 00-095 山鳥 敦子

I. 緒言

平成 11 年、学習指導要領が新しく改訂され、体育については、「自ら運動をする意欲を培い、生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育成するとともに基礎的な体力を高めることを重視する」という基本方針が打ち出された。

この体育の基本方針を達成させるにあたって、実際小学校ではどのように対応しているのか疑問に感じた。指導要領が改訂される前と後では小学校を取り巻く環境（小学校における体育施設・用具・器具）は、それほど変わっていないのではないか、指導に問題点はないのかという疑問を持った。自ら運動をする意欲を培い、生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育成するには、環境的条件（体育施設・用具・器具）の積極的な働きかけが必要であるとされている。

そこで、本研究では、石川県内の小学校における体育施設・用具・器具と体育指導（主に水泳指導）について現状を把握し、課題を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

A. 調査時期、調査対象及び調査方法

2003 年 10 月 23 日に開催された、『第 49 回石川県学校体育研究大会七尾大会』において参加された石川県内の小学校の教師を対象として質問紙調査を実施した。なお、回収率は 67.6%であった。

B. 調査内容

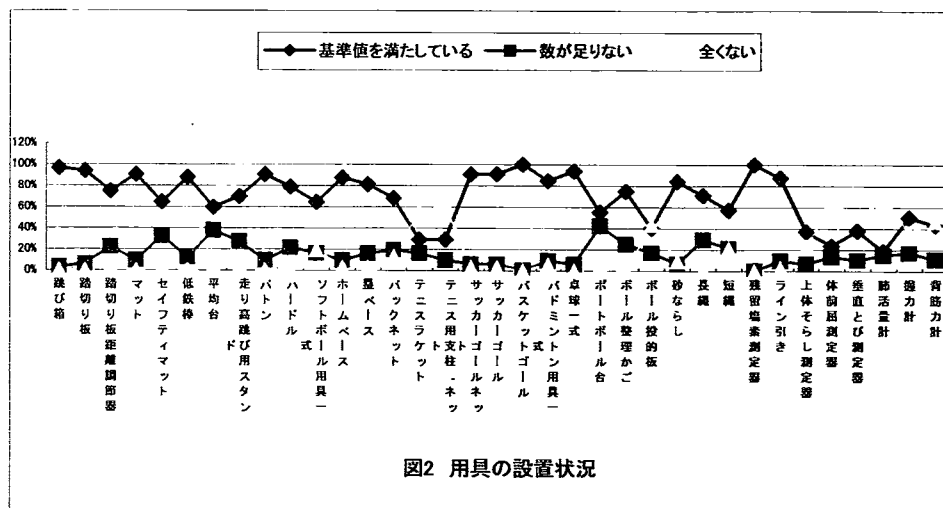
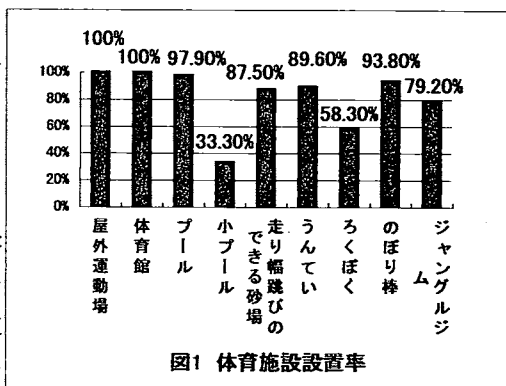
佐藤や島崎、立木、塚本、武田らの研究を参考に、体育施設・用具・器具の設置状況、水泳指導、体育指導に関する質問項目をそれぞれ作成した。

体育用具・器具に関する質問項目には、一番新しい資料である 1984 年の文部省が示した設置基準をもとに質問項目を作成した。用具の項目は、跳び箱、踏切り板、踏切り板調節器、マット、セイフティマット、低鉄棒、平均台、走り高跳び用スタンド、バトン、ハードル、ソフトボール用具一式、ホームベース、バックネット、テニスラケット、テニス用支柱・ネット、サッカー、サッカーゴールネット、サッカーゴール、バスケットゴール、バドミントン用具一式、卓球一式、ポートボール台、ボール整理かご、ボール投板的、砂ならし、長縄、短縄、残留塩素測定器、ライン引き、上体そらし測定器、体前屈測定器、垂直とび測定器、肺活量計、握力計、背筋力計、の合計 35 項目である。

Ⅲ. 結果及び考察

A. 体育施設・用具・器具について

体育施設（屋外運動場、体育館、走り幅跳びのできる砂場、プール、固定施設）については90%以上の学校では設置され、プールのない学校でも、地域の体育施設のプールを利用するなど、実態に合わせた指導を行っていて、体育指導に支障はないと考えられる。（図1参照）しかし、中にはプールに附属してあるはずの更衣室やシャワーのない学校があり、施設の老朽化が進んでいる学校が多かった。



用具・器具の状況は現行の学習指導要領を行う上では支障はないといえる。（図2参照）

上体そらし測定器・体前屈測定器・垂直とび測定器・肺活量計・背筋力計は、全くない学校が圧倒的に他の用具よりも多い。これらの器具は、昭和54年に改訂された、小学校のスポーツテストの体力診断テストに使用されていたものである。しかし、現在では、テスト項目も変わり、体力テストという名称になっている。テスト項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、20mシャトルランと、大幅に変わっている。本調査で使用した用具の設置基準で、現在の体力テストに使用する用具は握力計であるが、基準値を満たしている学校は約50%であり、数が足りない又は全くない学校が50%である。石川県の体力・運動能力の向上における施策では、平成18年度から体力テストの全校実施を目指しており、器具の整備が必要になると考えられる。

B. 水泳指導について

水泳指導は、調査を行った全ての学校が行っていた。水泳指導の時期は各学校によって異なるが、「改善したい」という回答が多く、指導要領に準じて指導計画を立てている学校でも時間が足りないと感じている。入水できない日の授業では9割以上の学校が「水泳に関連しないことをすることが多い」と答えている。このことから、水泳指導はプールに入って指導しなければ意味がないという考え方があるのではないかと思われる。水泳指導は、期間が限られており短い時数の中で系統的な指導を確実にしなければならないものなので入水できない日の授業も安易に他へ振り替えるわけにはいかない。そこで、教室、体育館でもできる水泳指導というものも、今後、検討しなければならないものと思われる。

水泳指導に使用される用具として、ビート板、ヘルパーが9割以上の学校で使用されている。この他にもダイブリングやおもりなど用具が十分にそろっていることで授業の学習効率が上がる、児童のやる気が高まる、泳げない児童も楽しめる、様々な泳力の児童に対応できる、安全性が高まる、練習時間が増やせる、衛生的になる、教師の負担が減る、教師のやる気が高まる、などの効果があるという回答が得られた。用具がそろっていることで指導における個々に対する対応の幅がもてるので教師にとっても児童にとっても良い効果が期待できる。しかし、逆に用具があることに安心して用具についての正しい知識を具えていなければ事故にもなりかねないという危険な部分もあることを忘れてはならないといえる。

指導は、ほとんどの学校が担任教師一人に対してクラスの20～30人で行っている。評価や目標設定について、多くの学校があいまいでよくわからないと回答している。

C. 体育指導について

体育施設・用具の状況は、「十分でない」と答えた学校が68.2%と多かった。しかし、現行の学習指導要領に準じて体育指導を行ううえでは急を要する程の支障はないと考えられる。施設や用具の問題の前に、教師の指導力不足、教師間の共通理解が足りないという問題が挙げられた。この問題はその学校での取り組み次第で大きく改善されることであるし、とても重要なことである。

体育施設・用具の状況が不十分であると答えた学校で、改善される予定がない学校が約86%ととても多く、ほとんどの学校が改善の予定がない。教師や学校自体が改善をしたほうがいいと思っても、予算の関係や行政側の関係でスムーズには改善ができないといえる。学校での施設・用具の管理をしっかり行うことがとても重要である。

石川県では、今後、小学校では、授業や体育的行事を始め、休み時間や放課後等において、気軽にかつ、安全に活動できるような体育施設・設備の充実に

努めていくという施策があるので行政側の対応にも期待したいが、各学校での整備・管理が重要である。

IV. 結論

石川県の体育施設・用具・器具の状況は現行の学習指導要領を行う上では困窮した状態ではないといえるが、よりよい体育活動を行ううえで重要な課題はあるといえる。

A. 体育施設・用具・器具について

①体育施設の老朽化対策、不備の改善

体育施設・固定施設はほとんどの学校が施設の老朽化に問題を感じている。児童の実態に合っていないものや学校の規模に合わなくなっているものがある。老朽化のために修理や補強が必要な学校が多い。

プール施設の更衣室やシャワーなどの付属施設が不十分な学校が予想以上にあった。遊泳用プールの施設基準にもあるように、更衣室・シャワーは必要である。

②用具・器具の充実・整備・管理

用具が不十分で体育指導が十分に行われていないという学校も多く、各学校の実態に合わせた対応が必要である。器具については、体力テストの全校実施が平成 18 年度から始まることを踏まえ、握力計の整備・管理が必要となる。

B. 水泳指導について

①限られた時間を有効に使えるようにする

教室、体育館でもできる水泳指導というものも、検討すべきである。

②用具、指導形態の検討

水泳指導に有効な用具の検討、指導形態の検討が必要である。

③目標設定、評価規準の明確化

C. 体育指導について

①教師間の情報交換の見直し

体育指導が不十分であると答えた理由に、児童に練習させられる時間がない、場所がない、教師の指導力不足、教師間の共通理解が足りないなど、がある。これらは施設などの面からでは改善に限界があるけれど、それぞれの教師が工夫して指導していることから、情報交換を積極的に行う必要があるといえる。

今後の課題

本研究は石川県内の小学校体育の施設・用具・器具という環境的条件からの現状把握が主であった。今後、石川県のみならず、全国レベルでの調査が必要である。